

# 支え合い通信

No.8

仕事や家庭以外に外に出て、  
誰かと会って、  
気軽に話を楽しめる“場所”は  
ありますか？



バス利用体験会(矢作町生出)

つなげよう！  
広げよう！  
みんなの  
“居場所”

来る前よりちょっと元気になって  
帰れる場所。

『困ったときはお互い様！』と  
言える誰かとつながれる場所。  
そんなちょっとした場所を  
あなたが持っていることが、  
日頃から支え合える関係を作るため  
に、とても大切になっています。



豊かな町づくり部会(広田町)

## 今号の内容

- 支え合いの地域づくりが始まっています  
…令和2年度の各地区協議体の取り組み紹介

# 誰もが住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けることができるまち そんなまちを目指して、支え合いの地域づくりがはじまっています。

超・超高齢社会となっている現在の陸前高田市。誰もが住み慣れた地域でいつまでも住み続けることができるまちを目指して、地区コミュニティ推進協議会単位で協議体が設置されています。各地区の取り組みを紹介します。

## 生出地区

### 暮らしの足の存続を目指して



4年目の生出地区は、高齢者の移動がテーマでした。免許を返納した後の暮らしの足をどうするか、今あるバスやタクシー券などを有効活用する取り組みを考えました。話し合いの中で「あることは知っているが、実際に利用していない」、「タクシー券の使い方や登録方法などが分からない」といった声があがりました。

そこで、免許返納後にバスを活用出来るように「バス利用体験会」を実施しました。

また、タクシー券の活用を進めるために、“まず自分たちがサービスのことを知ろう！”という協議体メンバーの声をもとに「タクシー券勉強会」を開催。タクシー券の対象となる人、申請方法や使い方などを勉強し、バス利用体験会の際に参加者へサービスの紹介を行いました。

タクシー券勉強会の様子



### バス利用体験会を実施しました！



体験会には約40名の方が参加しました。免許返納を考えて「ひとりでもバスに乗れるように練習のつもりで参加した」という方や、「久しぶりに会いたい人に会えるかと思って」参加した方など理由は様々でしたが、いざ乗ってみればちょっと遠くにお出かけする遠足のような感覚で、皆さん体験会を楽しんでいました。

地域の大事な足であるバスが続くように、上手に使っていききたいですね。

## 矢作地区

### 地域でできる支え合い送迎



矢作地区は3年目。昨年に引き続き、移動をテーマに免許返納後の暮らしを支えるために地域で出来ることを考えました。

バスの利用やタクシー券の活用などのアイデアが出されましたが、横田地区で取り組まれているボランティア送迎に矢作でも取り組んでみようということになりました。横田の例を参考に、運転手・運行日・周知方法や利用方法など、矢作らしい送迎の実現に向けて検討を重ねました。また、取り組みを地域の皆さんに伝えるためのチラシの作成と配布も行いました。

広田地区

支え合いの地域づくりを広める



広田地区の協議体は今年度で3年目。地域課題についての把握や整理を進めながら、地域の皆さんにも取り組みのことも知ってもらいたいと、これまでの様子を伝えるためにチラシを作成し全戸に配布しました。

支え合いの地域づくりに対する理解はあっても取り組みの浸透にはまだ時間がかかります。そこで、各部落で開催されているお茶っこなどの機会に合わせて協議体のメンバーや地域支え合い推進員が訪問して、地域のお話を拾い集めたり、サロンやお茶っこを開催しているお世話役の皆さんとの情報交換会などにも取り組みました。

今泉地区

支え合いマップで“今”を知る



今泉地区は今年度コミュニティセンターが再建され、集まりが開かれるようになってきました。しかし、まだ各町内会には公民館がないため、コミセンで行われる活動に参加できない方の状況はなかなか把握できないままでした。

そこで、支え合いマップの作成を通して、地域内に暮らす高齢者の状況を関係者みんなで共有することに取り組みました。



支え合いマップづくりの様子

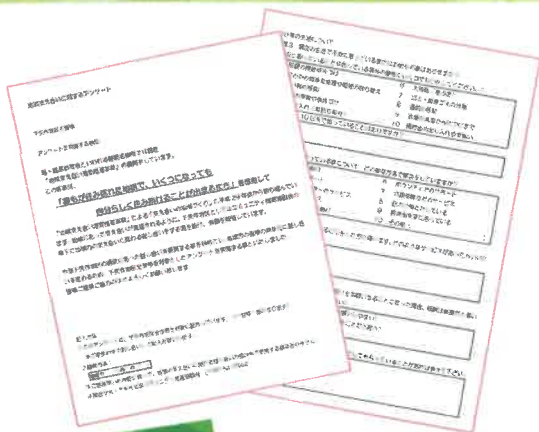
小友地区

支える側の役割をみんなで共有



小友地区は協議体ができて3年目。支え合うことは当たり前のこととして、地域にかかわる関係団体がどんな立場で、誰を対象に、どんな活動をしているのかを改めて確認しようと、情報交換の機会を持ちました。

それぞれの役割が確認できたので、地区としては隣近所での日々の声掛けを通したつながりづくりをこれまでと同じく進めていくことになりました。取り組みの様子はコミュニティだよりを通じて地域内にお知らせしました。



下矢作地区の協議体は今年度で2年目。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、協議体の集まりを開くことはなかなかできませんでしたが、地区や地域支え合い推進員が中心になって、地域に暮らす皆さんの声をどのように拾い集めるかを検討しました。

声を拾う方法としてアンケートを実施する方向で、聞きたい内容の整理を進めましたので、次年度は地域の皆さんへアンケートを実施する予定です。



長部地区は3年目です。これまでは、一人ひとりが楽しく暮らせるように、お茶っこ会を開催しているお世話役の皆さんが参加して、居場所づくりの輪を広げていこうと情報共有会や困りごとの相談などに取り組んできました。

今年度は下矢作と同じく新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、協議体の集まりの機会は少なくなりましたが、民生委員の皆さんにも参加してもらい、地域の現状の再認識などに取り組ま



米崎地区には協議体はまだ設置されていませんが、支え合い活動の理解を広めるためにコミュニティセンターを会場に活動しているサークルの方たちに声をかけ、「高齢者の社会参加と上手なコロナ対策」をテーマに石木先生とのお話会を持ちました。

地域のことや支え合いの大切さに理解を深めつつ、新型コロナウイルス感染症の影響でサークルの実施回数が減ったりお休みする状況が続いていましたので、感染症対策に特に強い関心を寄せていました。

今年度は3月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大が全国的に広がっていき、協議体の活動も、サロンやお茶っこ会、サークル活動などの居場所づくりを広めることも難しい1年でした。早くコロナ禍が落ち着くことを祈りながら、できることから、できる範囲で、これからも支え合いの取り組みを一緒に広げていきましょう！